

大量の土器が捨てられていました！

令和2年度の推定上野国府跡の調査は、元総社町にある宮鍋神社周辺でおこないました。宮鍋神社には、「古くはここに総社神社があった」という言い伝えがあります。

調査の結果、古代の建物の基礎（写真右の白線で示した範囲）が見つかりました。これと形がよく似た建物の基礎が、周辺でおこなった発掘調査でも見つっています。このことから、形の似た建物が、複数建てられていたと考えられます。

また、この基礎の上には、建物の柱をのせる大きな石（礎石）を配置していたと考えられています。これらの建物は、奈良時代ごろに建てられたと考えられていますが、今後くわしく調べていきます。どんな形の建物だったのか、そして、その建物はどのような使われ方をされてきたのか、とても興味がわきます。

そのほかに、平安時代の終わりごろに出来たくぼみの中に、たくさんの土器が捨てられていました。捨てられていた土器の多くは、現在の小皿くらいの大きさで、素焼きのものでした。



土器の捨て場

身分の高い人たちが、宴のときに使って、使い終わったあとは古い井戸や溝などのくぼんだところに、まとめて捨てていたようです。今で言うところの紙皿や紙コップのような感覚でしょうか。上野国を支配していた役人たちの、楽しい宴の様子が目に浮かぶようです。こうした土器の捨て場は、元総社町での発掘調査ではほとんど見つからず、とてもめずらしく貴重な成果です。



建物の基礎（白線で囲まれた部分）

令和2年度の発掘調査成果

い・せ・きワールド in 前橋 2021



「観音菩薩」：元総社蒼海遺跡群(145)出土



「仏像の鋳型」：元総社蒼海遺跡群(75 街区) No.2 出土

金銅製の仏像が見つかりました！

元総社公民館近くの元総社蒼海遺跡群(145)では、平安時代のものと推定される全高約10cmの金銅製の仏像（写真左）が見つかりました。台座の上に観音菩薩が立っている姿をしています。わずかに残る鼻や口元の様子から、やさしい表情の印象を受けます。また、この遺跡の北西にある元総社蒼海遺跡群75街区No.2では、こうした仏像や銅製の印鑑を作るための「鋳型」（銅を溶かして流し込む型：写真右）や金メッキに必要な金箔（とても薄く伸ばした金のシート）などがみつっています。

令和2年度は、元総社町、総社町植野、上細井町、荻窪町、上泉町、田口町など市内の各所で発掘調査を実施しました。竪穴住居跡を中心とする集落跡や浅間山、榛名山の火山噴火によって埋まった水田の跡が見つかりました。また、総社二子山古墳や愛宕山古墳といった大きな古墳の調査もおこないました。墳丘には葺石がきれいに並べられていて、当時の古墳の壮麗さには驚かされました。はるか昔に生きた人々の歴史が、少しずつ解明されています。

け、けっこう
捨てたコロ・・・



令和2年度の発掘調査成果 い・せ・きワールド in 前橋 2021
前橋市教育委員会事務局 文化財保護課/令和3年3月発行
住所：前橋市総社町三丁目11-4
電話：027-280-6511
FAX：027-251-1700
Eメール：bunkazai@city.maebashi.gunma.jp